

RETAILER ACADEMY NEWS

Oct 2021 | Bentley Motors Japan



ベンテイガ ハイブリッド日本導入

世界中で厳しい燃費改善が求められるなか、ダウンサイジングターボ車やハイブリッド車といった次世代モデルが相次いで導入され、現在では排出ガスを出さない電気自動車への転換が進行しています。フォルクスワーゲン グループはかねてより電動化に向けた動きを進めていますが、今年7月に発表した新戦略「NEW AUTO」の中でも、電動化とデジタル化に関する研究開発費の割合を増やし、電動化を加速させる姿勢を示しました。ベントレーの「Beyond 100」戦略に盛り込ま

れた電動化への歩みも、フォルクスワーゲン グループの一連の動きに応じたものです。

このような背景のなか、欧州などで先行して導入されたベンテイガ ハイブリッドが、いよいよ日本に導入されます。ベントレー初のハイブリッド モデルがベンテイガに導入されることは、すでにハイブリッド モデルを日本に導入している競合モデルと選択肢の幅が同等になるという意味があります。また、過去にベントレーにお乗りいただいていたものの、何らかの理由で競合ブランドに乗り換えてしまい疎遠になっ

ているお客様にアプローチするきっかけにもなります。

ベンテイガ ハイブリッドを販売するにあたって、どのようなお客様にどんなポイントをアピールすべきか。また、電動化が進んでいくうえでリテラーの皆様に覚えておいていただきたいのはどんなことか。そんな重要事項をリテラー アカデミーニュース特別編としてまとめました。

ベンテイガ ハイブリッドの導入を成功させるため、皆様のご協力をお願いいたします。

Beyond 100 戦略に明記された 電動化へのロードマップ

- 2023 2023年までに全3モデルのラインアップにハイブリッドを導入(ベンテイガ、フライングスパーの2モデルで導入済み)
- 2025 2025年までにベントレー初の完全電気自動車(BEV)を導入
- 2026 2026年までに全シリーズをプラグイン ハイブリッドのみにする
- 2030 2030年までに全シリーズをBEVのみにする



ベンテイガ ハイブリッドのメインターゲット

ベントレー モーターズが調査したところ、ベントレーのお客様の約80%が都市部で生活している方々であることがわかりました。そしてベントレーを所有するお客様の多くが、通勤などでほぼ毎日使用していることもわかっています。ベンテイガ ハイブリッドは、ベントレーのラインアップの中でも都市生活者にとって大きな魅力があるモデルといえます。こういった点を理解し、既納顧客へのアピールや、ハイブリッドモデルがないなどの理由で離れてしまったお客様へのアプローチ、新規顧客の開拓などに着手してください。

既納顧客

- 特に初代ベンテイガ V8を所有するお客様(主にハイブリッドのメリットをアピール)
- かつてベントレー オーナーだったものの、さまざまな理由で他ブランドへ流れてしまったお客様(ベンテイガ ハイブリッドのカスタマイズの選択肢の豊富さをアピール)



新規顧客

- SDGsなどへの意識が高い若い世代(環境性能とラグジュアリーとの融合をアピール)
- 女性のお客様(高い静粛性や実用性をアピール)



ベンテイガ ハイブリッドの特徴

すでにご案内済みですが、あらためてベンテイガ ハイブリッドの特徴をまとめました。
このモデルの特徴を理解していただき、お客様に正確に伝えられるように準備を進めてください。

— ベンテイガ シリーズのポジショニング —

BENTAYGA HYBRID

ベンテイガ ハイブリッド

革新的なベンテイガ。モーターと3.0リッター V6 エンジンを組み合わせた最先端のパワーユニットを備え、ハイレベルな静粛性とベントレーに期待されるパフォーマンスを両立。

車両本体価格：22,690,000円（税込）



BENTAYGA V8

ベンテイガ V8

ベンテイガ シリーズの中核モデル。レスポンスに優れた4.0リッター V8 エンジンと軽快なハンドリングによるダイナミックなドライビング体験を提供。

車両本体価格：22,690,000円（税込）



BENTAYGA S

ベンテイガ S

V8モデルの内外装をさらにスポーティにしたモデル。Speedモデルと同デザインのバンパーや専用デザインホイール、専用カラスブリットなど、個性的な1台を求めるお客様向け。

車両本体価格：26,900,000円（税込）



BENTAYGA SPEED

ベンテイガ Speed

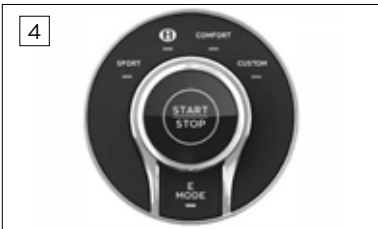
ベンテイガ シリーズにおけるパフォーマンスの最高峰。最もパワフルなベンテイガで、6.0リッター W12 エンジンの爽快感あふれるパフォーマンスを誇る。

車両本体価格：33,450,000円（税込）



ベンテイガ ハイブリッド専用装備

- フロントドア下部にクロームの「Hybrid」バッジ
 - 「Hybrid」ロゴ入りステッププレート
 - ハイブリッド専用の情報表示（走行時のエネルギー源とバッテリーへの回生状況、充電ステータスなど）
 - Eモード ボタン（ハイブリッド、EVドライブ、ホールドの3モードを選択可：下記参照）
- 運転席ドアのフューエル フィラー カバー リリースボタン
 - クロームの「Hybrid」バッジ付きエンジンカバー



充電に関する情報

- 200V 電源を使用し、残量ゼロからフル充電（約90%）まで約3時間で完了
- ベントレーの独自の200V充電器
- 車両の充電ソケットは給油口の反対側に設置
- タイマー充電ボタンを使用して、事前にプログラムした時間に充電することも可能



ベンテイガ ハイブリッドに装備されないもの

下記の装備・機能は、ベンテイガ ハイブリッドには装備されず、オプションでの設定もありません。これらの装備を必須とお考えのお客様には、シリーズの他のモデルに誘導してください。

- ベントレー ダイナミック ライド
- オールテレイン スペシフィケーション
- 7シート スペシフィケーション
- カーボン セラミック ブレーキ

Eモードとは？

ベンテイガ ハイブリッドには、ガソリンエンジンモデルと同様に Sport、Bentley、Comfort、Custom の4つのドライブ ダイナミクス モードが標準装備されています。これらとは別に、ベンテイガ ハイブリッドには3種類のEモードが装備されています。ガソリンエンジンモデルのオート スタート/ストップのオン/オフ ボタンに代わって装備されています。



HYBRIDモード

中長距離のドライブに適したモード。車両がエンジンかモーター、または両方の組み合わせを、いつどのように選択するかを決定して航続距離を最大化します。Sport モードとは併用できません。

EV DRIVEモード

市街地走行や短距離走行に適したモード。高電圧バッテリーの電力でモーターを駆動し、排気ガスを出さない電力のみでの走行距離を最大化します。アクセルペダルのプレッシャーポイントを越えるまで踏み込まないとエンジンは作動しません。また、バッテリーが完全に消費されると、Bentley モードまたは Comfort モードで走行している場合はEモードがHYBRID に、Sport モードの場合はHOLD に切り替わります。

HOLDモード

バッテリーの充電状態を維持する必要がある場合、またはドライバーがより大きなパフォーマンスを求める場合に適したモードです。このモードでは主にエンジンが使用されます。ただし、アクセルペダルを踏み込むと、モーターによるブーストを得られます。このモードは、ドライブモードを Sport にすると自動的に選択されます。エンジンとモーターの両方からパワーを得られるため、最大のパフォーマンスを発揮する魅力的なドライブ体験を提供します。

■ ベンテイガ ハイブリッド主要諸元

エンジン	3.0リッター V6ターボチャージャー付
最高出力（エンジン）	340 PS
最高出力（モーター）	128 PS
最大トルク（システム合計）	700 Nm
最高速度	550 km/h
0-100km/h 加速	5.5 秒
EV 走行距離	約 50 km
全長	5,125 mm
全幅（ミラー含む）	2,222 mm
全高	1,742 mm
最低地上高	247 mm
燃料タンク容量	75 L
ラゲージルーム容量	484 L（5席仕様）

*データはいずれも海外参考値です。

ベンティガ ハイブリッドの競合車に対する USP

ベンティガ ハイブリッドと直接競合するプラグインハイブリッドモデルは、レンジローバーとポルシェ カイエンです。
それぞれの個性を理解した上で、ベンティガ ハイブリッドの強みを探ります。

レンジローバー、ポルシェ カイエンの基本スペック

	ベンティガ ハイブリッド	レンジローバー Autobiography P400E (標準ボディ)	レンジローバー SVAutobiography P400E (ロングボディ)	ポルシェ カイエン E-Hybrid	ポルシェ カイエン ターボ S E-Hybrid
					
ディメンション					
全長	5,145 mm	5,005 mm	5,205 mm	4,918 mm	4,926 mm
全幅	2,010 mm	1,985 mm	1,985 mm	1,983 mm	1,983 mm
全高	1,710 mm	1,865 mm	1,865 mm	1,696 mm	1,673 mm
ホイールベース	2,995 mm	2,920 mm	3,220 mm	2,895 mm	2,895 mm
車重	2,648 kg	2,640 kg	2,800 kg	2,370 kg	2,565 kg
トランク容量	479L	654L	654L	645L	645L
燃料タンク容量	75L	90L	90L	75L	75L
パワーユニット					
エンジン	V6 ターボ	直列 4 気筒	直列 4 気筒	V6 ターボ	V8 ツインターボ
排気量	2,995 cc	1,995 cc	1,995 cc	2,995 cc	3,996 cc
トランスミッション	8AT	8AT	8AT	8AT	8AT
エンジン出力	250kw/340ps	221kw/300ps	221kw/300ps	250kw/340ps	404kw/550ps
エンジントルク	450Nm	400Nm	400Nm	450Nm	770Nm
モーター出力	94kw/128ps	105kw/142ps	105kw/142ps	100kw/136ps	100kw/136ps
モータートルク	350Nm	275Nm	275Nm	400Nm	400Nm
システム合計出力	350kw/449ps	297kw/404ps	297kw/404ps	340kw/462ps	500kw/680ps
システム合計トルク	700Nm	640Nm	640Nm	700Nm	900Nm
バッテリー容量	17.3kWh	13kWh	13kWh	17.9kWh	17.9kWh
充電時間	3 時間 (200V/40A)	2 時間 45 分 (200V/32A)	2 時間 45 分 (200V/32A)	—	—
EV 走行距離	50km (NEDC)	40.7km (等価EVレンジ・WLTCモード)	40.7km (等価EVレンジ・WLTCモード)	最大48km (WLTP) / 最大56km (NEDC)	最大42km (WLTP) / 最大53km (NEDC)
CO2 排出量	78 g/km (NEDC 中国)	85 g/km	88 g/km	83-71 g/km(WLTP)	92-86 g/km(WLTP)
0-100km/h 加速	5.5 秒	6.4 秒	6.5 秒	5.0 秒	3.8 秒
最高速度	254km/h	220km/h	220km/h	253km/h	295km/h
スマートフォンによる操作	—	可能	可能	可能	可能
車両本体価格	22,690,000 円 (税込)	18,310,000 円 (税込)	29,560,000 円 (税込)	13,000,000 円 (税込)	24,410,000 円 (税込)

*データは海外参考値を含みます。

EVやPHEVを求める人の考え方

EVやPHEVを求める富裕層は基本的に新しい物好き。自分が知らない分野への体験に投資する意義と価値を知っているため、ハイエンドSUVのPHEVにも興味がある場合が多いといえます。そんなユーザー層に見られる考え方をいくつか挙げてみました。



伝統的なしきたりや格式を重んじるような価値観ではなく、より流行に敏感で新しい体験や革新的なアイテムに価値を見出す

これまでにない体験により、自分の人生を常に刺激的なものにしたいと考えている

常にいろいろなことに挑戦し、自らの人生を切り開いてきたため、自分の価値観に自信を持っている

SDGsや社会貢献に積極的。これまで自分が得たさまざまな体験や知識を社会に役立てたいと考えている

戸建ての自宅や自社ビルなど自由に充電器を設置できる環境にあり、そろそろ電動車を体験したいと思っている

老舗ブランドは常に伝統と革新により歴史を紡いできたことを理解しており、高級車ブランドの電動化にも十分な理解がある

COMPETITORS INFORMATION

レンジローバー P400eの概要



- ランドローバー初のプラグインハイブリッドモデルとして登場したモデル
- 日本市場ではスポーツSUVモデルのレンジローバー スポーツとともに2018年6月に発表
- 2.0リッター 直列4気筒ガソリンエンジンにモーターを組み合わせたパラレルハイブリッド
- システム最高出力297kW/404ps、最大トルク640Nmを発揮
- モデルラインアップは5種類で、標準ボディが2種類、ロングホイールベース仕様が3種類

価格	レンジローバー VOGUE:	15,500,000円
	レンジローバー AUTOBIOGRAPHY:	18,310,000円
	レンジローバー VOGUE LONG WHEELBASE:	16,160,000円
	レンジローバー AUTOBIOGRAPHY LONG WHEELBASE:	18,880,000円
	レンジローバー SVAUTOBIOGRAPHY LONG WHEELBASE:	29,560,000円

ベンティガ ハイブリッドの優位点

対 レンジローバー

- ✔ ボディサイズはレンジローバーの標準ボディとロングホイールベースの間で、取り回しの良さと室内空間の広さを両立
- ✔ スタylingは、重厚な印象のレンジローバーに比べて、ベンティガはスポーティで洗練された印象が強い
- ✔ ベンティガは強力なパワーユニットに加え、車重もレンジローバーの標準ボディとほぼ同等のため、動力性能で大きく上回る
- ✔ エンジンレンジローバーの2.0リッター直4に対して3.0リッターV6ターボ。モーターはトルクで勝っており、システム合計出力が高い
- ✔ インテリアは、直線基調で無機質なレンジローバーに対し、ベンティガは華やかで有機的なデザインを備える
- ✔ レンジローバーの充電フラップはフロントグリルにあるため、日本では少数派な前向き駐車をしないと使いにくい

ポルシェ カイエン PHEVモデルの概要



- カイエンのプラグインハイブリッドモデルは2世代目。現行モデルは2019年に発表
- SUVとクーペの2種類を設定
- バッテリー容量を当初の14.1kWhから17.9kWhに拡大
- カイエン E ハイブリッドは、3.0リッター V6ガソリンターボエンジン+モーターの組み合わせ
ー システム最高出力340kW/462ps、最大トルク700Nmを発揮
ー 電気システムの搭載により、上級モデルのカイエンSに匹敵する動力性能を発揮
- カイエン ターボ SE ハイブリッドは、2019年に発表されたプラグインハイブリッドのトップエンドモデル
ー 4.0リッター V8ガソリンツインターボエンジン+モーターの組み合わせ
ー 出力と動力性能は、プラグインハイブリッドのSUVとしては世界最高峰

価格	ポルシェ カイエン E ハイブリッド:	13,000,000円
	ポルシェ カイエン E ハイブリッド クーペ:	13,600,000円
	ポルシェ カイエン ターボ SE ハイブリッド:	24,410,000円
	ポルシェ カイエン ターボ SE ハイブリッド クーペ:	24,900,000円

ベンティガ ハイブリッドの優位点

対 ポルシェ カイエン

- ✔ ガソリンエンジンのエントリーモデルは約1100万円の車両であり、ベンティガの価格帯とはそもそも異なる
- ✔ カイエンはSUVのスポーツカーとしてのパフォーマンス志向が強く、ラグジュアリー志向のSUVモデルではない
- ✔ E ハイブリッドのパワーユニットはベンティガとほぼ同等。静粛性と洗練性ではベンティガのアドバンテージが大きい
- ✔ ターボ SE ハイブリッドはカイエンのトップレンジモデルだったが、カイエン史上最強のターボ GTの登場により存在が薄くなった
- ✔ ポルシェは日本で独自の急速充電インフラを整備中だが、プラグインハイブリッドは急速充電に非対応のため恩恵が受けられない
- ✔ カイエンは優れた工業製品だが街中に溢れており、ベンティガのようにオーナーの趣味性や審美眼を表現できるモデルではない

プレミアムブランドの電動化への歩み

すでに欧州の高級車ブランドの多くはラインアップの電動化を進めています。競合ブランドが現在展開するBEVおよびPHEVモデルを紹介します。

Mercedes-Benz — メルセデス・ベンツ —

メルセデス・ベンツは、2025年までに電動車の新車販売シェア50%達成、2030年までには販売車両の100%電動化を目標に掲げています。日本で販売されるBEVはSUVのEQCとEQAのみですが、2022年にはEVのSクラス/EクラスとなるEQSとEQEが導入されると思われます。PHEVモデルはEクラス、Aクラス、GLCなどですが、新型となったSクラスとCクラスにもPHEVが追加される見込みです。

BMW

BMWは、2030年までには販売車両の50%をEVにする目標を掲げています。現在のEVはコンパクトカーのi3とスポーツカーのi8。さらにSUVのiXとiX3、4ドアクーペのi4の導入が予定されています。PHEVモデルは、3/5/7シリーズのセダンとSUVのX3/X5が用意されています。

Audi — アウディ —

アウディは、2026年以降に発売する新型車をEVのみにすると発表しています。現在のEVは、SUVのe-tronおよびe-tron スポーツバック、4ドアモデルのe-tron GTです。一方、PHEVモデルは以前導入されたA3 スポーツバック e-tronに留まっています。

Tesla — テスラ —

テスラは、ハイエンドに位置する4ドアのモデルSとSUVのモデルXに加え、それぞれのコンパクト版といえるモデル3とモデルYを追加。モデル3は400万円台から買える低価格が特徴で、BEVの普及を加速させています。

Porsche — ポルシェ —

ポルシェは、初のBEVとなる4ドアモデルのタイカンを導入。派生モデルとなるタイカン クロスツーリスモも追加されます。日本における充電インフラの整備にも積極的で、2023年末までに150kW級の急速充電器を全国の販売拠点やホテルなどに設置する予定です。



プラグインハイブリッド購入のメリット（制度・コスト編）

プラグインハイブリッドは、EVと同様の手厚い優遇税制や補助制度が用意されています。

補助は、車両の購入費用だけでなく、充電設備の費用まで賄えるものがあります。また、法人向けには、補助制度があるだけでなく、融資制度も存在します。

ただし、こうした補助制度は、国や地方自治体ごとにバラバラに存在し、しかも年度ごとに変化するもの。利用するには、こまめなチェックが必要です。

補助金制度が数多く用意されている

プラグインハイブリッドには、数多くの補助金制度が用意されています。そうした情報をまとめて確認できるのが「一般社団法人 次世代自動車振興センター」のウェブサイトです。ここで、国の補助金と全国の地方自治体の補助事業をチェックすることが可能です。車両の購入費用だけでなく、充電設備の設置費用までをカバーする補助金制度が存在します。さらに、法人には、融資制度も用意されています。国の融資制度は予算の上限に達すると、締め切りとなります。補助金の目安は、令和2・3年の経産省事業で最高30万円、環境省事業で最高40万円、CEV補助事業で最高額20万円でした。

[次世代自動車振興センター](#)

[全国の地方自治体の補助制度・融資制度・税制特例措置](#)

プラグインハイブリッドは優遇税制となる

プラグインハイブリッドは、新車購入時・車検時の自動車重量税が免税となります。また、自動車税も軽減の対象です。国の制度では、初回新規登録の翌年度のみ、おおむね75%軽減です。ただし、現在のところ、東京都や愛知県などはさらに優遇されており、初回新規登録から5年分が免除となっています。

自動車税

0 円
ゼロ

重量税

0 円
ゼロ

ハイブリッドは、どれだけ安くなるのか？

同じベンティガでも、優遇税制のあるハイブリッドと、V8モデルやV12モデルでは、購入時や年間の税額が大きく異なります。



ベンティガ ハイブリッド



ベンティガ スピード W12



ベンティガ V8

重量税	0 円	73,800 円	61,500 円
自動車税	0 円	87,000 円	75,500 円
合計	0 円	160,800 円	137,000 円



ベンティガ ハイブリッド購入のメリット 使用シーン別、想定顧客別のアピールポイント

ベンティガ ハイブリッドを販売するにあたり、お客様に必ずお伝えしてほしいアピールポイントがあります。
ここでは、あらゆるお客様にとってメリットとなる項目のほか、想定される顧客像別のアピールポイントを紹介します。

あらゆるお客様に共通するアピールポイント

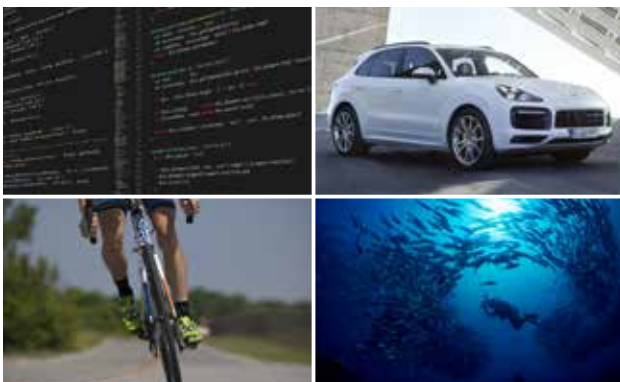
- クラスをリードするラグジュアリー SUVの最新PHEV
- モーター特有の加速感
- エンジン停止時でもエアコンの使用可
- アイドリングストップの作動による煩わしさからの解放
- 完全EVではないため走行可能距離への不安がない
- 競合車と比較してカスタマイズの選択肢が豊富



想定される顧客像と各アピールポイント

Aさん（男性）

私は46歳で、IT関連企業を経営しています。自動車に限らず最新技術に興味があり、その機能や仕組みについて考えるのが大好きです。現在はカイエン E-Hybridを所有していますが、スポーティな面がやや強いと感じています。家族も快適に乗車でき、私が毎日の通勤と趣味でも使用できる真のラグジュアリー ハイブリッドSUVにアップグレードしようと考えています。



Aさんの興味・関心

新技術、クラシックカー、家族での旅行やドライブ、スキューバダイビング、ロードバイク

Aさんの自動車の用途

都市部での通勤、趣味のスポーツで使用する機材の運搬、家族とのドライブ

Aさんにアピールすべきポイント

最先端技術を採用したベントレーの最新モデルであること
パフォーマンスと快適性を高いレベルで両立させていること
給油回数が減ることによって無駄な時間を使わずに済むこと

Bさん（男性）

長年、投資家として仕事をしてきましたが、一定の成功を収めたので50代前半でアーリーリタイアしました。現在は複数の環境関連団体の理事や役員として活動しつつ、森林保護に関するチャリティーイベントも手掛けています。現在所有しているのはレンジローパー AUTOBIOGRAPHYですが、ベンティガ ハイブリッドの静粛性や落ち着いた雰囲気、ラグジュアリーさに興味を持ち始めています。



Bさんの興味・関心

チャリティーイベントの仕事、家族と別荘で過ごす時間、伝統工芸・伝統芸能、ソーシャルイベント

Bさんの自動車の用途

都市部での通勤や会合への移動、郊外で開催されるチャリティーイベント会場への移動、旧友とのゴルフ、別荘への移動

Bさんにアピールすべきポイント

イベント会場や別荘への快適なロングドライブ
環境意識の高さを示すことになるためイメージアップにつながる
ゴルフなどでの早朝・深夜の住宅街での静粛性

Cさん（女性）

私は37歳で、数年前に始めたファッション関連のEコマースのウェブサイト運営で成功を収めました。現在はメルセデスAMG GLE 53 4MATIC+を所有していますが、新たなビジネスも軌道に乗ってきたことから、最新テクノロジーを備えたラグジュアリー SUVに乗り換えようと思っています。都市部で小学生の子供2人を含む家族4人でSDGsを意識して生活しているので、PHEVが最適だと考えています。



Cさんの興味・関心

ファッション、テクノロジー、育児、SDGs、旅行、現代アート

Cさんの自動車の用途

都市部での通勤、郊外への出張、家族でのドライブ

Cさんにアピールすべきポイント

お子様の送迎時の静粛性（人目のある場所で悪目立ちしない）
先進運転支援システムにより通勤など市街地走行も
ロングドライブも安心して快適
給油回数が減ることによって無駄な時間を使わずに済む
（主婦業もこなす忙しい女性に適しているPHEV）

セールスを後押しする各種施策

ベントレー モーターズ ジャパンでは、より多くのお客様にベントレー ハイブリッドの購入を検討していただき、成約を後押しするための施策をいくつか実施します。そのうち2つをご紹介します。

充電ユニットを無償オプションとして提供

ベントレー ハイブリッドを購入いただいたお客様には、ご自宅の壁などに設置して使用する充電ユニット（充電機器とウォールボックス）を無償オプションとして提供します。ベントレーのブランド ロゴ入りのウォールボックスは、充電機器を収納できる専用設計のボックスです。施錠可能なので、充電機器と充電ケーブルを安全に美しく収納する手段にもなります。この充電機器には、高電圧バッテリーがフルに充電されるまでの残り時間をはじめとする各種情報が表示されます。システムが充電プロセスを継続的にモニターし、不具合などが生じた場合には自動的に充電を停止する安全機構も備えています。

また、ご自宅の充電機器での充電に必要な充電ケーブルは、専用バッグとともに付属しています。



ハイブリッド向けファイナンス キャンペーンを実施

ベントレーにとって初めてのハイブリッドですが、競合ブランドをはじめ多くのメーカーにとっては、すでに導入済みのパワートレインです。これだけではニュースバリューとしては決して大きくなく、お客様の興味や購買意欲をかきたてる材料にはなりにくいというのが現状です。そこでベントレー モーターズ ジャパンでは、プロダクト以外で販売を支援する、既納顧客を対象とした新たなファイナンスプランを導入する準備を進めています。特にベントレーのお客様にとっては、まだなじみの薄いハイブリッドモデルをお試しいただける機会の創出にもつながります。積極的に活用いただき、既納顧客へのアプローチ強化につなげてください。

■ ファイナンスプランの概要

購入後1年間の金利分をキャッシュバック



- ハイブリッドに抵抗のあるお客様に対する「お試しプログラム」として提案可能
- 既納顧客に対するハイブリッド モデルへの代替メリットの提示
- ファイナンス利用率の向上

適用条件

1年間はローン支払いを継続する必要がある。1年未満で解約された場合、キャッシュバックは適用されません。

施策適用時の負担額試算

30万円/台

- 年率 1.49% の1年分を返金する
- ※ 上記はあくまでも試算です。ローン元金や頭金、据え置き価格によって返金額は変わります。



コミュニケーション方法によっては安売りと受け取られかねないため、「お得感」や「安さ」を前面に出さないようご注意ください。また、ハイブリッドモデルの次の車両代替時に、次の車両の金利が高く感じられてしまうことで、代替のハードルが高くなる可能性があることもご理解ください。

ベントレーのこれまでの電動化に関する取り組み

ベントレーは、Beyond 100 戦略が発表される以前、つまり世界的に自動車の電動化に舵が切られる以前から、電動化への研究・開発に着手していました。具体的な形として発表したのが2014年のこと。それ以降も、この分野の研究に投資し続け、ついにベントレー ハイブリッドを世界展開するまでに至りました。

2014年4月

ミュルザンヌ ハイブリッド
コンセプト発表



2017年3月

EXP 12 Speed 6 e
発表



2018年5月

ベントレー ハイブリッド
(初代) 発表



2019年7月

EXP 100 GT
発表



2020年12月

ベントレー ハイブリッド
発表



2021年7月

フライングスパー
ハイブリッド発表



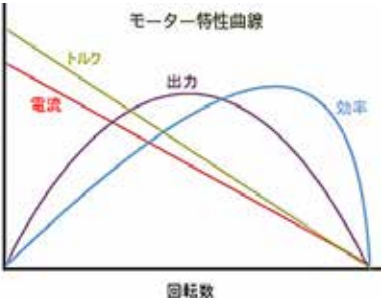
PHEVを理解するための基礎知識

プラグインハイブリッド（PHEV）は、充電した電力だけを使うEV走行が可能となります。そのため、性能を示す用語に特別なものが使われます。また、充電できるということで、従来のハイブリッドとも異なる部分があります。用語や充電関係の基礎知識を説明します。

覚えておくべきプラグインハイブリッドの性能用語	
等価EVレンジ [km] (EV走行換算距離)	外部から充電した電力だけで電気（EV）走行可能な距離。EVでは「一充電走行距離（km）」と呼ぶ。
プラグインレンジ [km] (充電電力使用時走行距離)	外部充電で電気走行して、完全にエンジンでの燃料走行に切り替わるまでの走行距離（CDレンジ）。
交流電力消費率 [km/kWh]	外部充電1kWhあたりの走行可能な距離（CD電費）で、数字が大きいほど優れる。EVでは「交流電力量消費率 [Wh/km]」を使い、数字が小さいほど優秀。
プラグイン燃料消費率 [km/l]	CDレンジ走行時（外部充電の電力で電気走行時）の燃料消費率（CD燃費）。
一充電消費電力量 [kWh/回]	一回の充電後に完全に燃料走行に切り替わるまでに消費する電力量。
ハイブリッド燃料消費率 [km/l]	外部充電での電気走行から完全なる燃料走行に切り替わった後のハイブリッド走行時の燃費（CS燃費）。

システム最高出力がエンジン+モーターでない理由

ハイブリッド車やプラグインハイブリッド車は、エンジンとモーターという2つの動力源を搭載します。ところが、クルマ1台のトータルでのシステム出力は、大抵の場合、エンジンとモーターの出力の合計よりも小さくなります。これはエンジンとモーターでは、出力の出方が違うのが大きな理由です。エンジンは高回転ほど出力を大きくしますが、モーターは一定以上に回すと出力もトルクも減ってゆきます。また、搭載モーターが複数であれば、それに見合った強力な電力供給が必要です。それらの不利を技術的に覆すことは可能です。ところが、現実には最高出力を追求するハイブリッドは、ほとんど存在しません。なぜなら、ハイブリッド化の最大の目的は燃費を高めることだから。そのため、世のハイブリッド車は、低速をモーター、高速をエンジンに任せて、最高出力を追求していないのです。



モーターは低回転が得意で、最大出力も低回転で発揮します。高回転に回すとトルクも出力も減ってゆきます。

プラグインハイブリッドの仕組みと長所短所

プラグインハイブリッドは、通常のハイブリッドにある駆動用の二次電池の容量を大きくして、外から充電できるようにしてあるのが特徴です。電池容量が大きいので、エンジンを停止した状態でのEV走行が長くなります。1回に使用する走行距離が短ければ、EVと同じように使えます。また、長距離を走るときは、通常のハイブリッド車と同じ。遠出を苦手としません。一方、長距離中心では、無駄に値段が高く、重い電池を積むため、普通のハイブリッドよりも不利となります。

メリット

短距離利用ではEVと同じように使える
長距離のドライブにも困らない

デメリット

長距離だとハイブリッド車よりも不利
電池を多く積むため、値段が高くなる

自宅に充電設備を設置するときの注意点

プラグインハイブリッドを自宅で普通充電するときは、必ず専用の充電設備が必要となります。普通充電に家庭用のコンセントを使ってしまうと、瞬間的に使用電力が大きくなって配電盤のブレーカーが落ちる、コードが過熱するなどのトラブルの可能性があるからです。ベンティガ ハイブリッドも例外ではなく、家庭用コンセントに接続できない仕様となっています。また、家庭に充電設備を作る場合は、必ず有資格者がいる電気の専門業者に依頼しましょう。



ベンティガ ハイブリッドの無償オプションの充電器は、専門の業者に依頼して設置しなければなりません。

急速充電と普通充電は何が違う？

「急速充電」は高電圧の直流電流を使って、多くの電力を短時間で充電することが可能です。ただし、充電時に発する熱がクルマに搭載される二次電池に悪影響を与えます。一方、「普通充電」は家庭の電圧の低い交流電流を使うため、充電に時間はかかりますが、電池には優しい充電方法となります。そのため多くのプラグインハイブリッド車は、あえて急速充電に対応させていません。



国産EVの充電ソケット。左が直流の急速充電用で、右が普通充電となります。

充電にかかる費用の目安

自宅での普通充電の費用は、電気契約によって異なります。通常の契約の場合、1kWhあたりの料金は20～30円といったところ。一方、ベンティガハイブリッドの搭載する二次電池の容量は17.3kWhです。最も高い電気料金30円で計算すると、30円×17.3kWhで、519円。これで約50kmを走行することが可能となります。



家庭での充電にかかる費用は、電気契約次第となります。1kWhあたりは30円以下が通常価格となります。

外で充電するときは、どこで行う？

自宅以外でプラグインハイブリッドの充電をする場合は、全国1万3000件以上の充電スポットを管理する「e-Mobility Power（イーモビリティパワー）」を利用するのが一般的です。東京電力や中部電力、トヨタなどの自動車メーカーが出資した会社で、旧・NSC（日本充電サービス）から2021年4月に事業を受け継いでいます。利用料金は月会費1540円（普通充電プラン）で、1分あたり2.75円。1時間充電で165円。会員にならずビジター利用の場合、1～15分まで132円、以降1分あたり8.8円。1時間の充電で528円です。



お客様との想定問答集

商談時には、ベンティガ ハイブリッドそのものに関するお問い合わせや、プラグイン ハイブリッド特有の疑問点、税金や補助金に関する事項が話題になる可能性があります。P1 ～ P8のおさらいとして、お客様との想定問答集を掲載します。

ベンティガ ハイブリッドについて

Q. ベンティガ ハイブリッドを購入すると、どんなメリットがあるのでしょうか？

A. 最もわかりやすいのは静粛性です。モーターの加速感やアイドリングストップの煩わしさからの解放、エンジン停止時でもエアコンを使用できる点なども挙げられます。PHEVなので走行可能距離への不安も生じません。クラスをリードするラグジュアリー SUVの最新PHEVで、競合車よりもカスタマイズの選択肢を豊富にご用意しています。

Q. ベントレーらしいパフォーマンスは実現しているのですか？

A. ベントレーの最新パワートレインである3.0リッターV6エンジンと最先端のモーターを組み合わせにより、最高出力は449PS、最大トルクは700Nmです。ベンティガ V8に匹敵するパフォーマンスを発揮します。

Q. 充電にはどれくらいの時間がかかりますか？

A. 充電専用設備（200V・40A）を使用して、約3時間でフル充電が完了します。タイマー充電ボタンを使用すると、事前にプログラムした時間に充電することも可能です。

Q. 充電の費用はどれくらいかかりますか？

A. 電気契約にもよりますが、1kWh（1キロワットの電力を1時間使用したときの電気料金）あたり約20～30円です。ベンティガ ハイブリッドの場合、バッテリー容量が17.3kWhなので、17.3×30円として約500円です。つまり500円で50km走行可能です。

Q. ベントレー ダイナミック ライドとカーボンセラミックブレーキは付けられますか？

A. ベンティガ ハイブリッドにベントレー ダイナミック ライドとカーボンセラミックブレーキは設定されていません。これらが必須であれば、ベンティガ V8がお勧めです。



Q. レンジローバーのハイブリッドモデルと迷っています。

A. ベンティガ ハイブリッドは取り回しの良さと室内空間の広さを両立させています。動力性能でも大きく上回ります。熟練工が手作業で仕上げるインテリアからは、ベントレーにしかないクラフトマンシップを感じていただけます。

Q. カイエンのハイブリッドモデルと迷っています。

A. Eハイブリッドと動力性能はほぼ互角ですが、静粛性と洗練された乗り心地はベンティガにアドバンテージがあります。カイエンはSUVのスポーツカーという位置づけなので、ラグジュアリー志向ならベンティガ ハイブリッドに軍配が上がります。

Q. ハイブリッドモデルはカスタマイズの選択肢が少なくなりますか？

A. ボディカラーやホイール、インテリア（レザーやウッドパネル）などに関する選択肢は、ベンティガ V8と同等です。もちろん、マリナーによるビスポークにも対応しています。

制度について



Q. ハイブリッドが対象となる補助制度について教えてください。

A. プラグイン ハイブリッドを購入するメリットの1つに、手厚い補助制度が用意されていることがあります。例えば令和2・3年の経産省事業では最高30万円、環境省事業で最高40万円、CEV補助事業で最高額20万円でした。他にも各地方自治体の補助制度があります。

Q. 税金が免除されるというのは本当ですか？

A. プラグイン ハイブリッドは、自動車重量税が免税となりますし、自動車税も軽減の対象です。自治体にもよりますが、自動車税は概ね初回新規登録の翌年度のみ、75%軽減となるケースが多いです。東京都や愛知県では、初回新規登録から5年分がゼロになります。

PHEVの理解のために



Q. スペックを見るとシステムの合計出力がエンジンの出力とモーターの出力を足した数字より低いのはなぜですか？

A. モーターとエンジンでは、最高出力を出せる回転域が異なるため、単純な足し算にはならないからです。燃費を高めるのがハイブリッドの目的なので、主に低速域ではモーターを、高速域ではエンジンを使用しています。

Q. 自宅で充電するにはどうすればよいのでしょうか？

A. 専用の充電設備が必要です。必ず有資格者がいる専門業者に依頼し、専用充電設備に関する相談、工事、電気契約の見直しなどを行う必要があります。

Q. 急速充電と普通充電は何が違うのでしょうか？

A. 高電圧の直流電流を使い、多くの電力を短時間で充電できるのが「急速充電」です。短時間で充電できますが、電池の劣化が早まるため、あえて採用しないケースも増えています。「普通充電」は、低電圧の交流電流を使用するので、時間はかかりますが電池の劣化スピードは緩やかです。ちなみに、ベンティガ ハイブリッドは急速充電には対応していません。

Q. 自宅以外で充電する場合はどうしたらよいのでしょうか？

A. 全国13,000件以上の充電スポットで充電可能です。主な設置場所は、コンビニエンスストア、商業施設、サービスエリア/パーキングエリア、道の駅、ホテルなどです。これらを管理する「e-Mobility Power」の会員になると、月額費用はかかりますが、外出先でも格安で充電できるようになります。

